



アクサ生命グループ

団体保険・個人保険事務管理システム「ANNEX」のセキュリティを支えるRSA SecurID®

アクサ生命グループは、世界最大級の保険・金融グループ、AXAと日本における企業保険のパイオニア、日本団体生命との資本提携によって2000年4月1日に誕生した生命保険グループ。世界水準の保険を日本市場に提供しているアクサ生命グループが、eビジネスへと乗り出した。その第1弾が2000年7月1日よりサービスを始めた団体保険・個人保険事務管理システム「ANNEX(アネックス)」である。ANNEXは「AXA NEW NETWORK EXCHANGE」の略称で、法人顧客の業務負担を大幅に軽減できるシステムだという。新しいサービスとセキュリティの関わりを、アクサ生命のITプランニングヘッドである、今井隆氏にじっくりとお聞きした。

コーポレート・ソリューションとしてのANNEX

アクサ生命グループが開発、運用を開始したANNEXは、顧客の潜在的なニーズと営業現場からあがった自発的な意見が融合して誕生した。重要な事務処理に慎重を期するため複雑になりがちな

保険業務では、常に企業顧客から事務処理を低減させたいというニーズが届いている。そういったニーズを受けて、営業の現場では「インターネットを活用し、具体的なソリューションを用意できないか」という声が、一昨年ほど前から高まっていたという。

こうした状況を背景として、システムの開発、テストなどが進み、2000年7月にANNEXとしてサービスがスタートした。

「当社のコーポレート・ソリューションと呼ばれるチャネルでは、法人企業がお客様となります。保険を福利厚生の一環として、従業員の方々に提供するわけですね。この際、当社との具体的な手続き業務を、お客様である企業のご担当者にお手伝いいただく機会が多いのです。

例えばパンフレットや申込書を配付したり、回収したりといった基本的なことですとか、退職される

方の契約を解約したり、別の制度へ移行するといった業務を手作業でお手伝いいただくのです。もちろん従業員の数が大きい会社ほど回数も多く、これをなんとか効率化したいというニーズがありました。

こうした状況を改善し、

業務負担を大幅に削減するのがANNEXです。ANNEXではインターネットを経由し、契約内容の照会や試算、異動請求書や送金通知書の自動作成から入手まで、保険に関わる事務処理を行なえます。ANNEXによって、ネットワーク化、電子化が可能な業務は便利になるわけです。」

具体的な例としては、保険台帳の処理が一番分かりやすい。従来は契約者である企業の従業員が、保険内容に関して社内担当者に問い合わせをすると、担当者はその都度、紙の台帳を参照していた。

これがANNEXではインターネット経由でアクサ生命グループのサーバーにあるデータベースを、担当者がブラウザーから直接情報を閲覧したり、入力・変更作業が行なえる。従来システムと比較して、大幅なコストダウンが可能になったのだ。

アクサ生命グループ

世界の金融・保険市場をリードするAXAグループの一員。AXAグループは世界60か国で事業展開、S&P社の保険財務力格付けは「AA」。2000年のグループ総売上は3兆5,240億円、グループ運用資産総額は95兆1,491億円にのぼる。



ITプランニングヘッド
今井 隆氏

RSA SecurID
採用のポイント

- ・世界的な導入実績と安全性のあるユーザー認証システム
- ・「認証トークン」という目に見える形による信頼性
- ・60秒に一回変化する予測不可能なワンタイムパスワードの確実性
- ・インターネットとブラウザ環境で利用可能なユーザー認証

ANNEX、セキュリティの要はRSA SecurID
しかし、保険業務にかかわる情報の重要性は、素人でも充分認識できる。その重要な情報をインターネットでやり取りする以上、確固たるセキュリティが必要なのは、ANNEXの場合、SSLによる通信路の暗号化、さらにRSAセキュリティのRSA SecurIDによる、二重のセキュリティが確保されている。

SecurIDカードはクレジットカードサイズの「認証トークン」である。60秒ごとにランダムな数字を生成して表示、利用者はPINと呼ばれる個人の認証番号と共に、そのコードを入力、認証サーバーによって認証される。60秒ごとに更新されるコードが有効であるかを確認できるのは、認証を行なう認証サーバー「RSA ACE/Server」だけである。

「AXAは保険・金融グループの世界的なブランドです。このブランド・イメージを守るために、AXAグループには世界規模のセキュリティポリシーがあるのです。当社もこのポリシーに従って、セキュリティに関してシステム化を行なっています。」

AXAセキュリティポリシーは、世界60カ国で活動するAXAグループが掲げるものであり、日本国内のグループ企業にも適用されている。「SecurIDの導入に関しては、すでにAXAグループの中で活用されていたという実績があります。AXAグループのメンバーは世界各地を飛び回っていますが、彼らはSecurIDを利用して、イントラネットなどのネットワークにアクセスしています。」

一般に認証というと、ユーザーID、パスワードが使われています。これらの情報はメモされたり、モニターに貼りつけたりされることもありますね。こういった保管上

の問題を、我々は非常に危惧してまして、別のコンセプトによる、形のあるものを求めていました。それがSecurIDのワンタイムパスワードだったのです。」

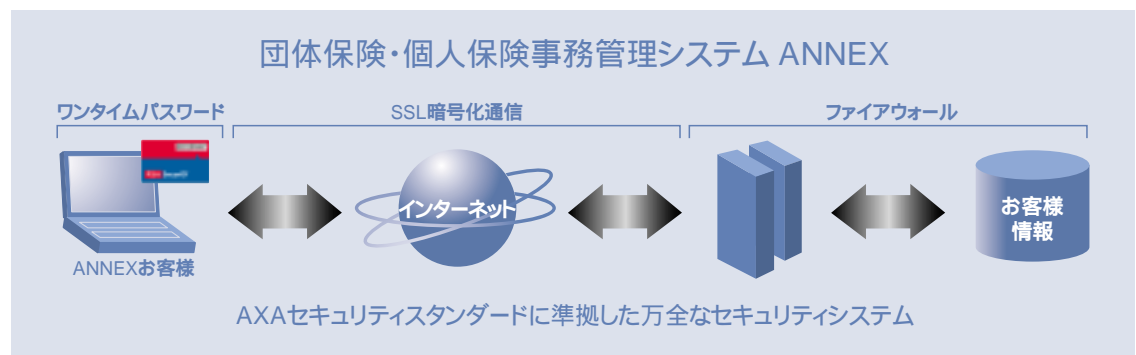
「百聞は一見にしかず」なSecurID
では、保険事務を行なう担当者、ANNEXにおける顧客のSecurIDに対する反応はどのようなだろうか。

「面白いのはSecurIDカードを持たれて、お使いになった段階で、大変スムーズにご理解いただけることですね。実際にSecurIDカードに触れるまでは分かりにくいんですが、使っていただいた途端に理解していただける(笑)。」

SecurIDによる認証システムは、顧客にとって「百聞は一見にしかず」な存在ということだ。いったん導入されてしまうと、その利用状況は大変スムーズであり、サーバー上での認証に関しても、充分満足できる状況だという。「セキュリティ」と言う内部的なシステムの話になりがちで、概念が先行する場合も多い。しかしSecurIDの場合は、認証トークンという物理的な、目に見える形でセキュリティが提供される。しかも60秒に一度、目の前でコードが変化するのだ。予測できない16桁の数字が60秒に1回、目の前で変化するとすれば、強固なセキュリティであることが利用者に伝わる。

なお、アクサ生命グループのネットワーク全体と、SecurIDの認証サーバーであるACE/Serverの親和性にもまったく問題がないという。もちろんセキュリティの強度に関しては、充分な性能を発揮、世界的B2Bシステムにおいても満足できる強度を持っている。

顧客の満足度を高めるANNEX、そのシステムのセキュリティを高いレベルで実現するSecurID。このコンビネーションが今後、保険業務を大きく変えていく。



RSA
SECURITY

RSAセキュリティ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビルヂング
エンタープライズ営業本部 TEL.03-5222-5230
<http://www.rsasecurity.co.jp> info-j@rsasecurity.com

お問い合わせ先

RSAおよびRSA SecurIDはRSA Security, Inc.の登録商標です。本文中に記載されている製品名およびサービス名は、各社の商標あるいは登録商標です。